

2009 年度研究プロジェクト「18 世紀における世界観の多次元の交錯」
Research Project: Multi-dimensional Crossing of 'Weltanschauungen'
in the 18th Century

実施期間 : 2009 年度

Term of the Project: 2009 fiscal year

研究代表者 : 石川 文康 国際高等研究所学術参与/東北学院大学教養学部教授

Project Leader: Dr. Fumiyasu ISHIKAWA, IIAS Academic Counselor;

Project Representative on the IIAS Planning Board;

Professor, Faculty of Liberal Arts, Tohoku Gakuin University

研究目的 :

18 世紀はさまざまな学問や文学・芸術が相互に乗り入れ、そのことが、それぞれの分野自身を充実化しただけでなく、さまざまな新しい知的営み（学問等）を基礎づけ、それらの発展を準備した時代である。そこでは、広い意味での世界観が、いわば多次元的に交錯していた。たとえば、文学と哲学、哲学と神学、自然科学と文学・哲学、法学と哲学、倫理学と経済学、地理学と文学・哲学、数学と哲学、音楽と文学、錬金術と文学、東洋思想（中国、インド、日本）とヨーロッパ思想の交錯、等々。言語の面でも、それまでのヨーロッパ学術言語であるラテン語と各国語との交錯、そして各国語間の翻訳が、今日の予想以上に活発に行われており、そこにも世界観の多次元の交錯が見られる。本研究プロジェクトは、そのような事実を踏査し、今日ますます多次元化する世界観の方向性を探り、その可能性の開拓を目指すものである。18 世紀を機軸にするが、その前後の世紀をも視野に収めたい。

Objectives:

In the 18th century, so called the century of enlightenment, it was remarkable that diverse sciences, literatures and arts influenced each other. Through it they developed and enriched not only themselves, but also they made possible or based several new sciences, for example economy, aesthetic, geography, phenomenology, Sinology, Indology and so on. These movements of multi-dimensional complication of several 'Weltanschauungen' are able to be observed distinctly among literary works, philosophy, theology (religions), natural sciences, alchemy and among European and Chinese, Indian and Japanese philosophy. Also within the dimension of language a transition from Latin to languages of each nation happened in the scientific writings in the beginning of the 18th century. According to these facts our project attempts to make clear what kind of multi-dimensional spiritual efforts were achieved and how they contributed to the development and formation of new sciences.

キーワード:

多次元、世界観、諸精神科学間の交錯

Key Word:

Multi-dimension, Weltanschauung, Crossing of spiritual sciences

参加研究者リスト： 16名 (◎研究代表者)

氏名	職名等
◎石川 文康	国際高等研究所学術参与／東北学院大学教養学部教授
赤松 明彦	京都大学大学院文学研究科教授
井川 義次	筑波大学大学院人文社会科学研究科准教授
池田 紘一	長崎外国語大学長
王寺 賢太	京都大学人文科学研究所准教授
岡野 薫	東北大学大学院国際文化研究科博士課程後期
小黒 康正	九州大学大学院人文科学研究院准教授
小関 武史	一橋大学大学院法学研究科准教授
高橋 輝暁	立教大学副総長・文学部教授
竹内 綱史	日本学術振興会特別研究員 PD(大阪大学)
田野 武夫	拓殖大学政経学部助教
堀池 信夫	筑波大学大学院人文社会科学研究科教授
増田 真	京都大学大学院文学研究科准教授
松村 朋彦	京都大学大学院文学研究科准教授
森田 團	東京大学グローバル COE 研究員
八巻 和彦	早稲田大学商学学術院教授

研究活動実績：

2009年度：

本プロジェクトにおいては、主に十八世紀（いわゆる啓蒙の世紀）に見られるさまざまな代表的世界観の多様な交錯に関する研究がおこなわれた。各研究会においては、ヨーロッパ・中国・インド哲学あるいは文学に見られる交錯（クリスチャン・ヴォルフ、儒家、イエズス会中国ミッション、カント、デイドロ、ダランベール、モンテスキュー、ゲーテ、リヒテンベルク、ヘルダーリン、等）、ドイツ・日本文化間の交錯（エンゲルベルト・ケンパー）、およびフランス啓蒙に見られる多角的パースペクティブに関する実り多い発表がおこなわれ、それらをめぐって活発に議論が交わされた。さらに、われわれのテーマとの関連において、ニーチェの歴史哲学、およびワルター・ベンヤミンやインゲボルク・バウマンの作品にメスが入れたことも特筆される。

なお、本研究は、本年度1年限りで活動を中止することとした。

研究会開催実績：

第1回研究会：2009年5月8日～9日（於：高等研）

第2回研究会：2009年7月17日～18日（於：高等研）

第3回研究会：2009年10月23日～24日（於：高等研）

第4回研究会：2010年2月12日～13日（於：高等研）

話題提供者：

なし

Achievement:

2009 fiscal year:

In each of the seminars, there have been creative presentations on the subject of crossing of several predominant 'Weltanschauungen' mainly during the 18th century, European, Chinese and

Indian philosophy or literature (Christian Wolff, Confucians, Jesuit China Missions, Kant, Diderot, d'Alembert, Montesquieu, Goethe, Hölderlin etc.), and on the multi-dimensional perspective found in French literatures of the 18th century. It is also worthy of special mention that in accordance with our theme Nietzsche's philosophy of history and Walter Benjamin's works were treated.

担当：川北副所長

国際高等研究所
研究プロジェクト「『18世紀における世界観の多次元の交錯』」
2009年度第1回研究会プログラム

開催日時： 2009年5月8日(金) 14:00~17:00
5月9日(土) 10:00~15:15

開催場所： 国際高等研究所 セミナー1

研究代表者： 石川 文康 国際高等研究所学術参与／東北学院大学教養学部教授
担当所長・副所長： 川北 稔 副所長

出席者： (14人)

研究代表者	** 石川 文康	国際高等研究所学術参与／東北学院大学教養学部教授
参加研究者 (13人)	** 井川 義次	筑波大学大学院人文社会科学研究科准教授
	池田 紘一	長崎外国語大学長
	王寺 賢太	京都大学人文科学研究所准教授
	** 岡野 薫	東北大学大学院国際文化研究科博士課程後期
	小黒 康正	九州大学大学院人文科学研究院准教授
	小関 武史	一橋大学大学院法学研究科准教授
	竹内 綱史	日本学術振興会特別研究員 PD(大阪大学)
	田野 武夫	拓殖大学政経学部助教
	堀池 信夫	筑波大学大学院人文社会科学研究科教授
	増田 真	京都大学大学院文学研究科准教授
	松村 朋彦	京都大学大学院文学研究科准教授
	森田 團	東京大学グローバル COE 特任研究員
	八巻 和彦	早稲田大学商学学術院教授
	** :	スピーカー

プログラム

5月8日(金)

14:00-14:30 「『18世紀における世界観の多次元の交錯』の理念」 石川文康
14:30-15:45 「当プロジェクトへの参加者の構想」 参加者一同 (各自10-20分程度)
15:45-16:00 休憩
16:00-17:00 「カントに見られる多次元的思考 - 理性批判の法廷モデル」 石川文康
18:00-20:00 懇親会

5月9日(土)

10:00-12:00 「17世紀後期から18世紀前期ドイツにおけるオランダ人批判と擁護」
岡野 薫
12:00-13:00 昼食
13:00-15:00 「儒教と初期啓蒙の親和性 - ヴォルフの学位論文『普遍的实践哲学』をめぐって」 井川義次
15:00-15:15 今後の計画

配付資料（公開不可）

- ・石川文康「カントに見られる多次元的思考 — 理性批判の法廷モデル」
- ・岡野 薫「17世紀後期から18世紀前期ドイツにおけるオランダ人批判と擁護」
ほか

国際高等研究所
研究プロジェクト「18世紀における世界観の多次元の交錯」
2009年度第2回研究会プログラム

開催日時： 2009年7月17日(金) 14:00～17:00
7月18日(土) 10:00～15:15

開催場所： 国際高等研究所 セミナー2

研究代表者： 石川 文康 国際高等研究所学術参与／東北学院大学教養学部教授
担当所長・副所長： 川北 稔 副所長

出席者： (11人)

研究代表者	石川 文康	国際高等研究所学術参与／東北学院大学教養学部教授
参加研究者 (10人)	井川 義次	筑波大学大学院人文社会科学研究科准教授
	岡野 薫	東北大学大学院国際文化研究科博士課程後期
	小黒 康正	九州大学大学院人文科学研究院准教授
**	小関 武史	一橋大学大学院法学研究科准教授
**	竹内 綱史	日本学術振興会特別研究員 PD(大阪大学)
**	田野 武夫	拓殖大学政経学部助教
	堀池 信夫	筑波大学大学院人文社会科学研究科教授
	増田 真	京都大学大学院文学研究科准教授
	松村 朋彦	京都大学大学院文学研究科准教授
	八巻 和彦	早稲田大学商学学術院教授
**	スピーカー	

プログラム

7月17日(金)

14:00-15:45 小関武史氏発表
テーマ「『百科全書』に描かれた中国の政治」
15:45-16:00 休憩
16:15-16:45 小関武史氏発表への質疑応答
16:45-17:00 研究会運営と研究報告書へ向けて(石川文康)
18:00-20:00 懇親会

7月18日(土)

10:00-12:00 田野武夫氏発表(質疑応答を含む)
テーマ「ヘルダーリンの後期詩作における多次元の世界像」
12:00-13:00 昼食
13:00-15:00 竹内綱史氏発表(質疑応答を含む)
テーマ「『悲劇の誕生』の歴史哲学」
15:00-15:15 次回の計画

*なお、タイムスケジュールはあくまでも目安で、多少の変動がありうることをご了承ください。

配付資料（公開不可）

- ・小関武史「『百科全書』に描かれた中国の政治」
- ・田野武夫「ヘルダーリンの後期詩作における多次元的世界像」
- ・竹内綱史「『悲劇の誕生』の歴史哲学」

国際高等研究所
研究プロジェクト「18世紀における世界観の多次元の交錯」
2009年度第3回研究会プログラム

開催日時： 2009年10月23日(金) 14:00～17:00
10月24日(土) 10:00～15:15

開催場所： 国際高等研究所 セミナー1

研究代表者： 石川 文康 国際高等研究所学術参与／東北学院大学教養学部教授
担当所長・副所長： 川北 稔 副所長

出席者： (12人)

研究代表者	** 石川 文康	国際高等研究所学術参与／東北学院大学教養学部教授
参加研究者 (11人)	赤松 明彦	京都大学大学院文学研究科教授
	井川 義次	筑波大学大学院人文社会科学研究科准教授
	池田 紘一	長崎外国語大学長
	岡野 薫	東北大学大学院国際文化研究科博士課程後期
	** 小関 武史	一橋大学大学院法学研究科准教授
	竹内 綱史	龍谷大学経営学部専任講師
	田野 武夫	拓殖大学政経学部助教
	堀池 信夫	筑波大学大学院人文社会科学研究科教授
	** 増田 真	京都大学大学院文学研究科准教授
	** 松村 朋彦	京都大学大学院文学研究科准教授
	森田 團	東京大学グローバル COE 研究員

**： スピーカー

プログラム

10月23日(金)

14:00～15:45 増田 真氏発表
テーマ「ル・メルシエ・ド・ラ・リヴィエールにおける啓蒙と神秘主義」
－『幸福な国民またはフェリシー人の政体』(1792)における宗教－

15:45～16:00 休憩

16:15～16:45 増田 真氏発表への質疑応答

16:45～17:00 研究会運営と研究報告書へ向けて(石川文康)

18:00～20:00 懇親会

10月24日(土)

- 10:00~12:00 村松朋彦氏発表(質疑応答を含む)
テーマ「近代ドイツ文学と視覚の変容ーゲーテ、リヒテンベルク、ホフマン」
- 12:00~13:00 昼食
- 13:00~15:00 小関武史氏発表(質疑応答を含む)
テーマ「中国の政治に向けられたフランスの目
～モンテスキュー『法の精神』から『百科全書』へ」
- 15:00~15:15 次回の計画

配付資料(公開不可)

- ・増田 真「ル・メルシエ・ド・ラ・リヴィエールにおける啓蒙と神秘主義」
ー『幸福な国民またはフェリシー人の政体』(1792)における宗教ー
- ・村松朋彦「近代ドイツ文学と視覚の変容ーゲーテ、リヒテンベルク、ホフマン」
- ・小関武史「中国の政治に向けられたフランスの目
～モンテスキュー『法の精神』から『百科全書』へ」

国際高等研究所
研究プロジェクト「18世紀における世界観の多次元の交錯」
2009年度第4回研究会プログラム

開催日時： 2010年2月12日(金) 14:00~17:00
2月13日(土) 10:00~15:15

開催場所： 国際高等研究所 セミナー1 (1F)

研究代表者： 石川 文康 国際高等研究所学術参与／東北学院大学教養学部教授
担当所長・副所長： 川北 稔 副所長

出席者： (10人)

研究代表者	** 石川 文康	国際高等研究所学術参与／東北学院大学教養学部教授
参加研究者 (9人)	** 赤松 明彦	京都大学大学院文学研究科教授
	岡野 薫	東北大学大学院国際文化研究科博士課程後期
	** 小黒 康正	九州大学大学院人文科学研究院准教授
	小関 武史	一橋大学大学院法学研究科准教授
	竹内 綱史	龍谷大学経営学部専任講師
	堀池 信夫	筑波大学大学院人文社会科学研究科教授
	増田 真	京都大学大学院文学研究科准教授
	** 森田 團	東京大学グローバルCOE研究員
	八巻 和彦	早稲田大学商学学術院教授
	** :	スピーカー

プログラム

2月12日(金)

14:00~16:00 小黒康正氏発表
テーマ：「水の女」の黙示録
ーインゲボルク・バッハマン『ウンディーネ行く』をめぐって

16:00~16:15 休憩

16:15~17:00 小黒康正氏発表への質疑応答

17:30~ 懇親会(夕食)

2月13日(土)

10:00~12:00 森田 團氏発表(質疑応答を含む)
テーマ：アレゴリーとリズム
ーベンヤミン『ドイツ悲劇の根源』における歴史哲学

12:00~13:00 昼食

13:00~15:00 赤松明彦氏発表(質疑応答を含む)
テーマ：ジェームズ・ミルのHistory of British Indiaを読む

15:00~15:15 当プロジェクトについて(石川文康)